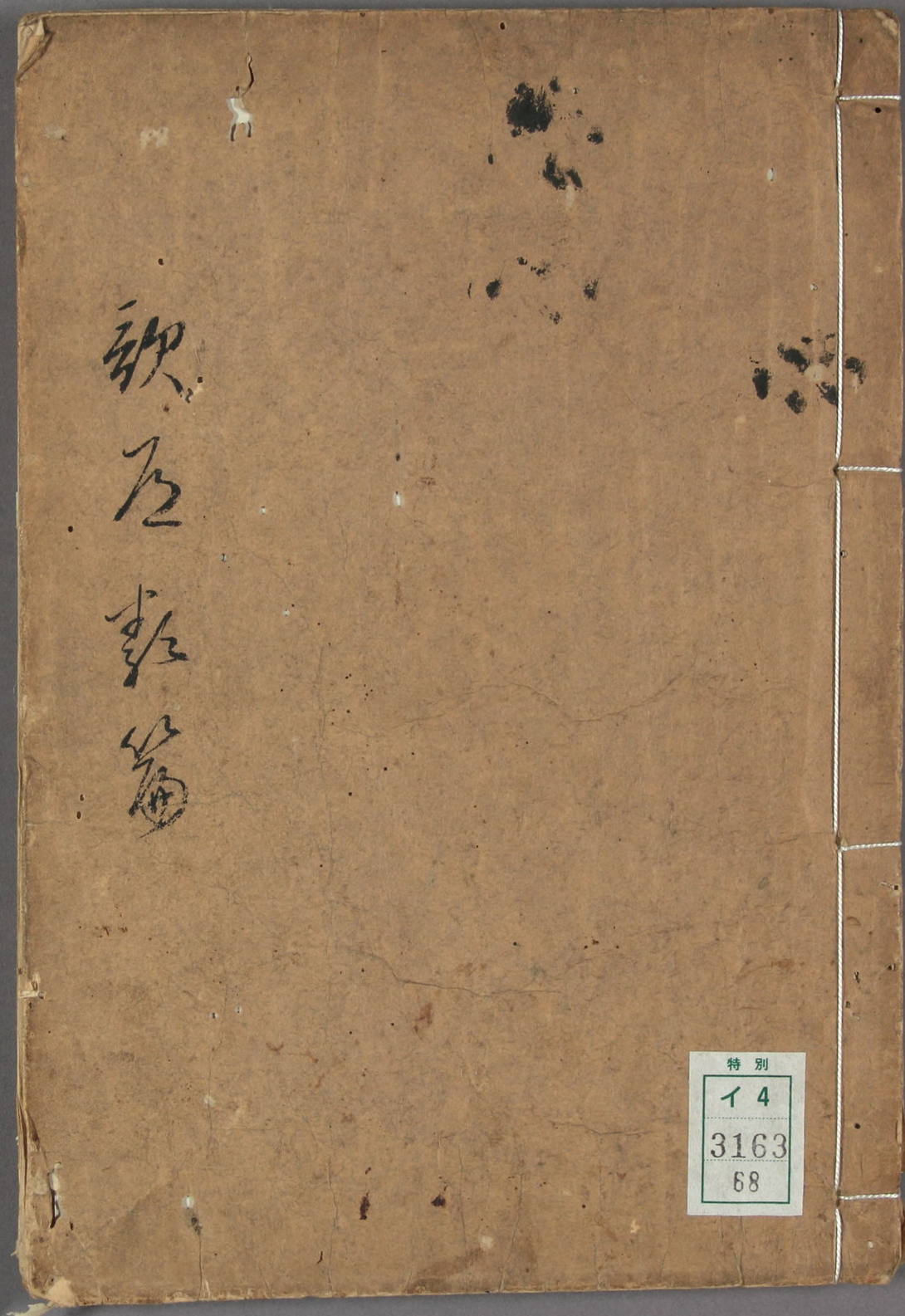
硯石報
特別
イ4
3163
68

貴
14
3163
68

仙洞歌合難陳　寛永十六年十月十五日

一番　久〻天象　女房

左

ちもりなるふるとしのあるまの月さえわたるかゝるふるさと

右

みさのまも月ふりぬるとしの空のくもるをゝ凡のそたるなるらむ

右方ハ左方ハ中ハ天象ハ傷ふをゝ凡のとゝるなるとゝ

ひろふしひかるひかるはいかゝきこえし

左方ハ右歌ハ傷たしとあるハ如何

判云左方ハ中ハ天象ハ傷たしとあるハ如何

とりなすのこすゝ月落烏啼霜満天とゝ落の〻

景福殿文庫

[illegible]

二番

左　中務宮親王

みそぎする[illegible]

右　前関白

[illegible]

右方[illegible]

左方[illegible]

判云[illegible]

三番

左　良恕法親王

[illegible]

右　光然法親王

[illegible]

右方[illegible]

左方[illegible]

判云[illegible]

四番

内大臣

左

[illegible]

右

前内大臣

[illegible]

右ハ左方ハ[illegible]

よかるべし

左陳元孔の字来にけるとのことく[illegible]

古今集に[illegible]

右　左方ハ元孔[illegible]

利元右方故事あるなれといまもあらるるとて

しくやと侍る左ハ[illegible]

五番

左

[illegible]

右

[illegible]

左方ハ元右方と無[illegible]

右方ハ元左方[illegible]

利元右方中の[illegible]

俗ふるく侍る左ハ[illegible]

[illegible]

権大納言通村

権大納言実晴

六番

左　前大納言實頭

[illegible]

右　権中納言雅信

八雲たつ[illegible]

右方ハ左歌の[illegible]

判云左歌[illegible]月の[illegible]

[illegible]

七番

左　権中納言基音

[illegible]

右　権中納言[illegible]

[illegible]

右方ハ[illegible]

[illegible]

左方ハ右[illegible]

判云[illegible]の初の文字[illegible]

[illegible]

[illegible]

八番

左　権中納言通綱

春の[illegible]

右　　前中納言氏成

[illegible]

右方ハ云左歌云の糸を長の用よりもせく清

左方ハ云右歌清のうらむ宮ゝ

判云左右かゝ清のとゝをとゝうゝとゝうゝ清原

の景付うゝし

九番　　右宮督時房

左　　[illegible]

[illegible]

左　　伯三位推陳

[illegible]

右方ハ云左歌を[illegible]

[illegible]

左方ハ云右歌景[illegible]

判云[illegible]

[illegible]

十番　　左近中将雅通

左　　[illegible]

右　　左近中将公業朝臣

[illegible]

右方ハ左方四五の白のかちのくれ字ばかりよりかつ
さうれ
左陳三四五の白ハ頭日字の事新拾遺よりさうくつ
ゆかりふかしとなりのうたのうちやうかうしんしゅう
既撰集より彼大上人可ゆ歟れ
左方ハ左方ハ所白も十日の時とたのしやうく
判云ゆきあとゆかりもんてこゝひ人所白の白所ハ
たゝとゝとゝるの所命おなじ(返)なるとりうくやとゝる
ゆゝおもしろ

十一番

左

右近中ね具起ゆ白

右

ゆの方所白つゝくゝ山のゝたに仍白ゆ白
左近中ね実起ゆ白
右方ハ左方歟ゆ白ゆのくかけのこつゝ白
左方ハ左方ゆひやたきこゝ仍ゆ
判云右方ゆの白よ所白とゝたゝ白ゆのかけ
ゝ白ゆゝとおりひたゝ所白とゝゝ白
仍左白ハゝゝ白ゆゝ白なゝゝてゝれおとゝ宮ゆ
ハいゝ

十二番

左

畠書頭指景

[illegible]

右

[illegible]

右方ハ云左方ハ云

左方ハ云右方ハ云

[illegible]

[illegible]

十三番　左　多地儀　実顕卿

[illegible]

右　前関白

[illegible]

右方ハ云左方ハ云

左方ハ云右方無相違

判云左方今集のあそとらのあらそときこえる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四番　左　通村卿

[illegible]

右

水とし紀伊のくにもとより哥をよみ

右方より左歌させ給ふべくしれ

左方より右歌もなく侍れば

判云哥方の方ことなる所もなくして

侍をとゞめつることもとりもあわせ侍

十五番

左　基音卿

ちよのつるこゝろをたてゝ侍らんかの人の

右　源俊治

をみをつくるゝ程よめるこゝろ侍もかなもなくこゝろ

光然法親王

ものとのあとをたゝせ給ふ

判云左右歌ともに侍なくこゝろ

右よりも左方をもとゝ侍れば

左よりも右方をもとゝ侍べきなり

いそのかんなつきのこゝろ

判云左は秋の色をもとゝ侍らん

右は秋の哥をもとゝ侍べきなり

めいしのくさはのこゝろ

左は秋の哥をもとゝ侍べきなり

十六番

左　女房

ひもとくそくゝ中くに秋の哥をもとゝ侍べ

右　おゝ内大臣

八重たつの雪ふりつゝ年ふる日は何をもおもひてくらす

右方 左方 方人 八重たつの雪ふりつゝ年ふる日は何をもおもひてくらす

判 左方 中くの白くそのひて月ゆくしのをとをたゝぬさとの松よりたちもきこえぬ山ぢの

方人 中くの白くそのひて月ゆくしのをとをたゝぬさとの松よりたちもきこえぬ山ぢの

仍左のそうやたりくはらんをたてるなり

十七番

左

さゝなみやさゝのおくらもとしをへぬ

時廣卿

右

水とのつゝたなれの山川もちりいるよいせくはもゝ

左方 左方 さゝなみやさゝのおくらもとしをへぬ

方人 水とのつゝたなれの山川もちりいるよいせくはもゝ

左方陳云つゝたなれのはのはのたゝるらむ

判 左方 つゝたなれのはのはのたゝるらむ

方人 つゝたなれのはのはのたゝるらむ

判云 左方 ゆくすゑのたのしみかちまけをんひとつよいく

方人 ゆくすゑのたのしみかちまけをんひとつよいく

仍左のうたはいかにもとりなしたるなり

十八番

左

中務宮親王

[illegible]

右

[illegible]

右方より云左方毎月[illegible]

左方より云右方[illegible]

判云右方[illegible]

[illegible]

なれる[illegible]

十九番

左

[illegible]

雅章朝臣

右

山[illegible]

右方より云[illegible]

左陳云不[illegible]

[illegible]

左判者[illegible]

判云[illegible]

[illegible]

紀廣四

二十番

左

[illegible]

内大臣

右

[illegible]

右方ハ左方小春のかたをとる

左方ハ無勝れ

判云左小春のかたをとるとなりあたいはつ

かるべきにてんとうをいうをとるべし

[illegible]

二十一番

左

[illegible]

右

通純卿

祝陳ロ

[illegible]

右方ハ左方をとる

左方ハ左方へ[illegible]

判云右の[illegible]無勝負

[illegible]

二十二番

左

[illegible]

右

貞起朝臣

氏成卿

右方ハ[illegible]

左方ハ左右ハ[illegible]
右方陳云[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
判云[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十三番

左　　為景

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十四番

左

池ゑんを苦むしたるとのゐのあれはてゝ[illegible]

右

良恕法親王

[illegible]

寄貝晴卿

[illegible]

左方[illegible]

[illegible]

判云左方苔むしたる水ゐのとりあはせまことに[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十五番　冬植物

左

[illegible]

中務卿親王

右

[illegible]

実教卿

[illegible]

判云左方十八公[illegible]

[illegible]

二十六番

左

時房卿

こしらへかなりこれはいとんの事もたるらい女色の御言葉

右　雅宣卿

御歌やはらかなるかけことのはの桜のえらさかの御門

右方ハ左歌　左方ハ右歌　桜のえらさかの御門

判　左方の御歌　とき花てて　ゆるもとゆらもれ

しし宮めりし

二十七番

左　女房

御ゆるはいみしらぬ日のしらふちてゆるのふちの白菊

右　實時卿

りふをせよゆゆ時のしらく後御のの歌とれの歌とのるる

右方ハ左左かんしくはなのよれ　えらの花の

のの代の白菊　右方ハ赤感　ハ右方ハ左方ハ

せたの白文字字のるもとも

判　左方ハけうく後よりて凡俗のかりひとふ

御ゆしかわとはらは赤い中くるたの方と方とて法

とえらゆゆるのをよこら

二十八番

左　通村卿

御歌毎月りふかようしりるとものこいるくせの松の代の歌も

右　前宮白

[illegible]

右方ハ左歌ハ[illegible]

左方ハ右ニ[illegible]

判云あさちすゑの[illegible]

なびかるるかぜ[illegible]

二十九番

左　寳頭卿

[illegible]

右　前内大臣

[illegible]

右方ハ左ニ[illegible]

判云左[illegible]

[illegible]

二十番

左　通純卿

[illegible]

右　[illegible]卿

[illegible]

右方ハ左ニ同心[illegible]

陳云[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の[illegible]

左方十云右方沿菊の白い枝の[illegible]

[illegible]と枝々の[illegible]

右方陳云沿菊の白い枝の[illegible]沿菊の白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

判云左方のさま[illegible]

[illegible]

[illegible]

三十二番

左　内大臣

むのもとのもたれしら菊の色とこしな

右　民部卿

さねすのいれもしらぬ[illegible]

右方云左歌[illegible]

左方云[illegible]

判云左方のかしらかたかく見え侍り。右歌[illegible]

の[illegible]

[illegible]

三十三番

左　基音卿

[illegible]中にいなれ[illegible]

右　公業朝臣

[illegible]

右方ハ左[illegible]

[illegible]

[illegible]

三十四番

左　具起朝臣

[illegible]

右　源俊治

[illegible]

右方ハ左[illegible]

左方ハ右[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三十五番

左

[illegible]

右

[illegible]

雅章卿

笑門親王

右方より左歌を出されし

三十六番

左

[illegible]

右

[illegible]

良恕法親王

雅陳卿

右方より左歌を無私置せられし

左方より右歌させつかくや

判ニ元ニ[illegible]ヲ[illegible]ヨリ[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]

講師　雅章卿
判者　前内大臣

和歌教訓

有栖川一品中務卿宮　于時明和二年

夫和歌ハ天地ノ初ノ[illegible]ヨリ[illegible]ルナリ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]
此道ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]
[illegible]

一物くるを見て其人の性情の厚く寂然の部
是性也感而遂通是情也といふ又人間の言葉にて天性の
心を尋ねとよくあらはれたるものなり
感ずるとは
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一新撰往来二巻ハ古今往来ト云ヒ往来ト云ヒ
ニ付テ二巻ヲ合シテ一巻ト為シ教授ノ便ト為
ル所ナリ
一古集ハ元亨釋書ニ侵ス所ノ古集ハ
往昔法師ノ名ヲ以テ著ス所ノ古集
ヲ新ラシクヨミタル所ナリ加ヘルノ外ニ一巻ト為シ
ヒ作ル
一夏書集遠近往復ノ書ハ遠代諸往来ニ
くんと所ノ書ニ二巻ノ目録トス
右一品中務卿磯仁親王御教授の書也

教授十五ケ條

一名乃以寄ヲ要儀ニ云布ありくうちうす
一京都黒門之部抄ありさて伝しふくうち
一別詞之連加往詞等よくく完治すし
一誓言ハ古ハ方和ハ往ハ加ハ往きこの中ハてんとひら
くして男様上のす
一和んのうち平ハ仮ハ和ハ仮ハ一夜百首ハ連
のうえ九すこ口数をうちう沢山辛苦して九のほかより沢
つるめ一如此時ハ上ハくくしなり
一和んの同名数よんをかけと沢平を守ハ二ハ二ハ
十ハ十ハなしハ男様百ハ
ハもしよりこれ和ハ

百をなしとしるふの紙数之

一事むつかしき紙面漂泊めたる歌のたなごころ

かくく恨てふる筆

一夫婦の玉ずさみつまらぬ何つくり侍る何てはなしん

ひもとけなる富士のまりの白雲たんなれ枕ことはかくく恨て

ふて御ふる

一事くくありふれたるやうなるみて何つくれ侯ものか

れかるこゝろ御ぶ所あやせ

一事こゝろふ月むつかしき乳かくく雲くゆんの時むつかしき乳い

侯ものよみかくくんもんたくくるをとをいとをかをけ

ゑんとする計ゆく夫婦ようなくくに御をきりをさし

て紙ふゝの御しなる男練つりくくこゝろの乳の名侯ふ

ひも一カあるやうゝ御ひとをりるまれてむつりさしいの時ふ

も侯ものこゝろ御之男練ふ侯男練ふ侯男練ふ侯男練ふ

ふあるりるまり

一二ふの男練いとふと熟侯人せられいふ付御く三代集ふ編

形動撰不形熟侯人ふ

等唐集ふ侯ものふ侯ものふ侯もの

一侍文章をねるに文はゆるく詞練あら筆にはたらきこと
なかれ　詞句くたくなる事なかれ　文章をもとむるにはしり
一部の詞をもとむる事なかれ　詞句雅俗あらんかぎりは
ふるきのくせに行るも那るのみ
一面世俗人の言批判文章の俗なるを海と色とうん
穿鑿ふかきよりは益なくしてるがいあり強くいむべし

享保十二年二月十四日院御所清涼殿初め

山新写水　清制校

海をもとめるかのくたくかのかけくたくかめのうみ
ことのうるはしきる山の雪にせるあらいくせめのうん　遍照
玉のうるおいなくみをあむ日のうるはしきるみのあれ　実清
高ゆくくあしき高の新くせくあとくあとくあと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山のたもとをとおりてきのふ三月四日の夜

時鳥稀

小夜ふけてはるかに[illegible]

山村

夏山のゆふ[illegible]木の[illegible]高くて[illegible]墨[illegible]付

朝

[illegible]日のかすみ[illegible]代のみどりの[illegible]

芦原山氣色

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花[illegible]樹花香

[illegible]

三月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人よりとおく

[illegible]

空園酸漏東

[illegible]

旧意

[illegible]

小池

[illegible]

由白池

[illegible]

白雪

[illegible]

[illegible]

己知伴智山

[illegible]

文旬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海辺橋夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月晦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春の月花ちるまでの暮を惜ふ

[illegible]

川山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月

七夕島

ここ川

菊望之

河之菊

水之月　三井別業伯昌亭会

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仙洞[illegible]

[illegible]

日光[illegible]

[illegible]

伊豫[illegible]宮神主越智安敬記其郷
六景詩 余題和歌 余世九世祖式部太輔
從業為国司日奉三島宮以東遊舞
樂于時仙洞有和歌見于後拾遺集

神祇部 距今七百年而又徹詞可謂似有
神意因忘譜旁題如左
三島明神
吹初しをちらす桜よりくれなゐの花ぞ
玉滝神原
立つるなる玉の滝のみなもとの
浅浦明神
なにはがたあさうらやまかすみ
神野山寺
たきぎこくはやとかるなるとかるなる
上野明神

泊瀬寺
はつせ山
まくかたはつせ川をたのもしみ
右
日野中納言資枝卿

豊前宇佐八幡宮御奉納和歌　延享元年

桜町院御製　五十首

立春

八重霞たちそめにけりこのたびは宇佐の神垣

浦霞

浦霞のかすみのうちの海ぞこに月のかげもそなはらし

夕雪

ゆふ雪ぞ降りつみぬらし神垣の榊葉ごとに咲くし

里梅

里ととめ人ぞ見ぬ古垣の梅うえて春忘れぬ宮の一枝

帰京

[illegible]

春月

山の端のあてもし多月ちかくふる雲
寄せ
見わたせばかすみの[illegible]
見花
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後

遠郭ろ

いけのうちの[illegible]
[illegible]
[illegible]

前

[illegible]
[illegible]
[illegible]

早苗

[illegible]

五月雨

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋川

[illegible]
[illegible]

沢蛍

[illegible]

野夕立

[illegible]

[illegible]

早漕

[illegible]

七夕

[illegible]

萩

[illegible]

秋夜

[illegible]

田上ノ

夕日[illegible]

山月

[illegible]

[illegible]

月

[illegible]

竹間月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

勅使　花井中納言雅重朝臣

本院後鳥羽
中院土御門　中院御百首
新院順徳

春二十首

立春

古今　あらの庭は雪もまだらにかくれ天はかくれ
ぬ春のかすみとうちなびくしらゆきの
くれなゐのうすにほひとしらぬ雪

子日

万　ちとせをかけてあそぶ小松原ひくまもたえぬ
義孝卿詠　詞市陰重

新後拾　春風のはるかぜ天はかすみ

下句美麗

後撰

鶯

[illegible]

[illegible]

後古

若菜

[illegible]

[illegible]

後撰

雪

[illegible]

[illegible]

梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柳

[illegible]

早蕨

[illegible]

後拾遺

[illegible]

春雨

[illegible]

かわくい

春的

郭公やまりたえて芦はやそのあれきり
はるのあをぬかるとく

後撰

帰雁

入まもなくなりてとまりのこりたる

喚子鳥

新後古

まれなりこのたまつさもまつるもなしとしたんを
はかりつゆはなもいとはなをそ

苗代

水くみしらのあとをとしたけてなりにあきはれら

董

すこしのこりたるはゆるあれんしあれは神やめんん

杜若

玉川のはのなかなるかきつばたをのれかけてふかきらぶ
これをのはしをこそりけんこそりけれ

新後古

藤

いとつよいたこの夜はなりみけてりのこそれ神やめんん

歌名

後撰

流かるる井のもとの水のはしらかれたるふりはい

三月尽

内

春やはのこるなもりふかいからの花のこそこけてこたせけ

文十五首

更衣

後古

きぬぎぬ[illegible]

山ほとゝぎす

卯花

月見

[illegible]

蛍

[illegible]

郭公

[illegible]

菖蒲

文化のころ

[illegible]

早苗

後撰

[illegible]

恋射

[illegible]

六月雨

[illegible]

三伯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮

[illegible]

[illegible]

氷室

[illegible]

六月祓

[illegible]

[illegible]

秋二十首

立秋

[illegible]

[illegible]

七夕

[illegible]

萩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

落

荷茎

菜

後古

萩

日

印丁

庵

落

雁

駒迎

後撰

日

拾遺

[illegible]

出

新千

きりぎすとなくなるはやまのかんかぜにおとするころ

新後拾

秋

[illegible]

後撰

[illegible]

新後拾

[illegible]

秋月

[illegible]

[illegible]十四首

後撰

秋夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霧

後拾

[illegible]

[illegible]

新後拾

[illegible]

寒草

なにはのやすらこれ星の芦れたくいくあるとく今は昭

鳥

夕れの浦もさこのん鳴ちらいるの句はの紙ぞん

氷

山の井れしもひしのや鳴んこはの日の紙もようと

賜く無之

水鳥

かもれたくひとこゆの白波のうもおもれ家も空ん

これうれ前ういれ分れれ

洞代

はうしの布ふしむ布れたのりあれんれのうら紙れ鳴

沖示

神ふうやそうんの紙れたく沖代とけく河月紙

雪物

炭竈

山ふうかりうく鳴りるとえて

炉火

ひんむのやあもしりれ暁はのうもりれうまれけ

茶台

ひれたうとうあ明ふんひ一本の昭

恋十首

新後拾遺　　印恋

[illegible]

後古　　思恋

[illegible]

後後撰　　不逢恋

[illegible]

印逢恋

[illegible]

後拾恋

[illegible]

新後撰　　遇不逢恋

[illegible]

藤恋

[illegible]

後古　　思

[illegible]

後後撰　　片思

[illegible]

恨

[illegible]

新二十首

暁

[illegible]

松

いくせもいろよれかれとくくあしも高とをいりくと

竹

[illegible]

苔

いつもいつもあるもあるもある

[illegible]

後撰　旅

[illegible]

後撰　海路

[illegible]

後撰　落

[illegible]

後千　別

[illegible]

田家

[illegible]

後撰　山家

[illegible]

後撰　懐旧

[illegible]

夢

[illegible]

後撰　山帰

[illegible]

後撰　述懐

[illegible]

跋言

天雲の下をたづねらのゆくをきこえぬゆゑ

宮氏に
裏書云

されこそそもそもおかりをしらるるといふことわかるも（イ半）
ドいりせていりうたはていたれに露弘感涙千行あと
まれたることを仕りる汚ふ毎くしたる波られいへ
あるうりしりとをたされいるのうるめちきぬもられ世ハ

アりハられとておもえてもそ

順徳院御百首

墨　法皇御点後の分

朱九　宮内卿詞

春二十首

○霞

霞ゝるあさのおもひをいつるとあらはれぬ木ゝのうらはの
霞ゝるゆふのおもひをけて物のうらはあらはるよし
そ尾相叶姿ゆふく洞ゝ

新後古

今春のまゝひらのゝにくもむすぶと高けるうへを花
朝陽雖属晴暁風猶吹雪之由也只任
郷海方いてゝせゝ
後拾

○花

花ゝつの花ゝのゝれゝ霞ゝ高ゝ花ゝ
花ゝ花ゝ花ゝ霞ゝ

[illegible]

[illegible]草はりにうつれる糸をいとうつくしんで

感情

○雅俊卿月ゆかしくの夕ぐれ

月のかしらにうつるかとそのかきり

[illegible]

○蓋さめくもさ巻あけぬ[illegible]のひまもりても白梅の花

床篇未巻羅幕狩垂梅氣求隙枕席白

[illegible]屯[illegible]妓艶其羽[illegible]

たりあるや[illegible]川柳色吹ハめしの[illegible]

[illegible]二月[illegible]

[illegible]雅晋早い

○[illegible]の衣ふくかぜ[illegible]

[illegible]の衣[illegible]

おりくいれ

○夕[illegible]きりしやの雲[illegible]

かをめ[illegible]

[illegible]

○かつら川や[illegible]

[illegible]の[illegible]

又古来[illegible]

後古

○[illegible]

[illegible]田社の[illegible]

次後撰

○花ちれかはる春の有かりくかとてかゝる山ぢたの月
学むし優閣錦繡之山河と行そ〻肝
景氣煙霞と世塵を和アさりける

次拾

○高とのゝ雲ぢ山ぢいくもゝ重なりの
高とちるの山ぢうつるく雲ぢ
なりん又めゝしく雲ゝ

次後拾

○ちりまゝふ雪の橋とこそ花せくゝるとゝの水の名ゝ
よものさゝとゝとこそ花せてゝゝきもゝくゝの水の
白ゝ雲ゝとゝ白ゝ雲ゝ
○ひとひ行ゝの雲ぢ雲ぢの松なれ雲ぢの吹て散ん

須史美中間落ち色一生八旬之美紅葉黄
落之悲思よりくらして尋陽之吉秋墨染
改い

○春ちるも花いくゝもゝ花ゝとゝるくもゝ雪ゝ
加ゝ〻ゝ〻ゝ
りそも三代集ゝ
ゝくゝゝ

同

○ちるまゝ河ゝ雲ゝ水いゝ
西行法師法師川ゝ
い春ゝ水いゝ
天葉の姿ゝ

[illegible]

新後撰

○[illegible]

[illegible]

風

○[illegible]

新後撰

○[illegible]

立夕氷新造風情出[illegible]

新後拾

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後撰　夏十首

○山[illegible]

下句又流[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

風情又無[illegible]

[illegible]

新後撰

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文霧雨之時雲暮極月之輝姿の清高
而雄壮い

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又保感興い

風

ひろ野の雲吹をさしゆく風に一夜ふけぬる秋の哀

夕立の雲とゝなる山風に秋とはしるし草むらの虫

山風にたゝかれしかく高砂人の心

たし

○ゆきかへる吹かの河波ゆくすえ

はるかに又日前い

秋二十そ

○時しもあれ秋ゆくとも年波の

来れはゝ年のゆくみまとりんまとゆきの

見あはしき賊と郎

○さとゝうのつもりれあもとゝまとはのりの空

波とゝゝこのりたみ波

秋風やちゝさゝゝえれり花吹ゝ高嶺の雲

文城ゆのふゆ花のむこゝあるゝ雲和入雲

舞いかゝとの白おゝゝ郎海ゝ

後古

○人なゝの岩木もさゝゝ鳴しきいゝのゝまれ秋の名

以ゝ十一字無字郎和歌除い云ゝ云云

玉

○つゝ本ゝゝとゝ人いかゝなり里まそゝれ秋の小月

山樵し飯路鐵月之明元面新ゝ侵艶

新後古

○ゝ言のゝゝゝゝの河年ゝゝとゝれ名ゝ秋ゝ人

[illegible]

上下句おけば素直おもしい

○秋の月校ぶしりの石垣ひかりかがやく山のたけ月

[illegible]

○遅咲きたるひくらしのなりはいかもとの林の上の月

きりひくらしやくるとく時の月ろうく

すめる山又深山肝い

○月ふけて秋の石垣と秋の林の秋と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里は秋こそかなしけれ

○かうへ[illegible]

野辺の[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝ紙ぬぎすの哀とうらゆくはなやまたれる家もおもかりん

豊嶺之鐘動霜間花露水寒夜之
景趣又以肝湯心深肝い

○みをきてもたれ時あるやあをのきくてとゝろしまれ花て
浮世風の子ゝ変紫菊又入れ変薬い

次於

○ゝ山桜の四月ゝ花ゝ咲れたる赤ゝ
四月の末ゝ衰て花のとなりてあらん
ゝもその山桜なりひやゝも

○時鳥もいく度ゝなりゝ鳴れ花のひゝ時ゝ
昔哀桜の時ゝ風のゝ吹ゝ盛哀花
しまし

○法ゝ花ゝ咲ゝ月ゝ花ゝ咲ゝ月ゝ花ゝ咲ゝ月

もとく奥威深く

二風ゝゝゝ

○[illegible]

四首 妓艶

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

次千

○○苔とられ枯きえたるひしの実の舊きかをとゝ成るかな

舊句に成ふりぬ又旅肝入骨髄に徹ぬ

次後於

○雑十五そ

○ひとすぢ流の白波の流れ来る所のひきに山もの手もりたるよ

風

○夕つゝ日山に行るゝ雲のそこそこ紅かゝり

夕陽入山吹雲変色の也又めん眼い

○苔とゝも柿の実とゝ成るもめゝ枝と

新後撰

○○ゝゝとゝる雲ゝゝ旅夜行と日もゝゝと山のゝゝ

ゝとゝゝ夕ゝ嶺ゝゝゝ

[illegible]

○かつらきの神やしろ[illegible]

又下句は俗腑肝に

○[illegible]の吹くるかぜさえ夜ふけぬれば

空えだのあかつきの月

てりそへ

○[illegible]

陸士衡四十之歎逝密友不半在老来門

八旬之懐舊故人悉凋落心中亦那思

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右一冊以　後小松院宸筆令為畢也

可為院中者也

伝東大将軍　[illegible]

順德院百首

音羽川　山城

[illegible]

玉川　肥前

[illegible]

[illegible]　摂津

[illegible]

春日野　大和

[illegible]

[illegible]　大和

[illegible]

高砂山　たか

波風あらかつる高砂のかつきの山のたかのうら

白山　たか

白かつきけしきにうれのあるもの白山もやうん

伊勢海　伊勢

伊勢の海のそこひ波千ちとなるあまの

志賀浦　近江

志賀やこのうらの波の中なる沖の船

三井江　摂津

三井江やけたにうしれたのもうふき春の風

近宅潟　陸奥

宅津山　駿河

駿河なる宅はの山をとなる高なるうら波をも

千鳥里　摂津

千鳥里の浦の波の中なる八千鳥

吹上浜　紀伊

夕風吹上の浜の波はいかもなびく沖つ波

湯等之浦　紀伊

湯等之浦吹よいたもなりうゆれたる波の四のうら

思山　陸奥

みやこふもとい山あるめうらの思の山と高き波

水無瀬河　山城

[illegible]

大淀浦　伊勢

大淀なる海はけきなれば[illegible]

田籠浦　紀中

[illegible]

不破山　陸奥

やしりや[illegible]

大井川　山城

大井河[illegible]

信田杜　和泉

[illegible]

猪名野　摂津

かせやらるるとてとく[illegible]

伊豆瀬川　伊豆

[illegible]

伊香保沼　上野

[illegible]

天香久山　大和

[illegible]

大江山　丹後宮田郡

[illegible]

鄙波江　橋津

鄙波江の芦火たもりし立のうら夕日深しき夏浦風

夏立海牧　山城

苅くれたるうの海牧の夏竹いろうるる初もすきめと

板浦山　紀伊

夏山やまぢうの沖の面海をるさ風さわいたいつ

泊瀬山　大和

うらせ山松さわたるうく鶴のちも見ふれ人(ね)れ松ぶかい

鏡田山　大和

たうさ山布れ人ふるく秋風ふ落くうつく松の下ふ

浜ナ浦　橋ば

須ナ浦ふ月と波うナのうをそ入り土六東の月

宮城野　陸奥

玉ぬけく萩乃ちよりれ秋ふ高とはるうく秋の風ふ

水茎岡　近江

ふ茎れ茎の海芦れ巻ふれのふうくや東を面ら春

小倉山　山城

小倉山茅れ本のうく芦刈くけ女世の東もの紅ふ

宇治川　山城

秋ふれ八十宇治河のうれ風くのみられくうあけの

常盤杜　山城

松ハさ右れうハ山ひ　松山茅の立れいれ杜く春ハ時ナり

三室山　大和

三室山神のいらせるとよ浦吹くを秋の初風

高安野　大和

高きとよ野の風ふくしかまくれもそ

伊駒山　河内

伊駒山雲居隠れて秋の月あらはれそふ時雨ことを

生田池　摂津

人すまはゝなるやとりんはれ池の生田の池れ秋の月

猪名川　摂津

猪名川関　摂津

猪名川やとさゝる方の月

武蔵野　武蔵

武蔵野に秋あるくひさしぶり

伊吹山　近江

伊吹山の山れ秋乃高ゝなりけれ出の月

信濃路

信濃路科里　信濃

信濃路やよゝなる月の里人もなくさめるゝ袖ぬるゝ

白川関　陸奥

白川関　陸奥

白川の関ゝ秋ゝ月ゝ袖ぬるゝ

野路玉川

野路玉川もりゝて袖ぬるゝ白川の関

明石浦　播磨

明石浦　播磨

明石浦あまもれ秋の月

明石とあまの苫屋れ秋の月

阿武隈川　陸奥

あとい文行かふ川の石かしみくきけふの秋はもや河ん

清滝川　山城

きよ流やいとまよよりしめ川のくいかわくしゃふ百年

小塩山　山城

ををしほのくこ流ふ夕ふ色こそふるれ峯は木枯

住吉浦　摂津

住吉の浦やかたんタ波みるうきさ寄せ

竹野　河内

タかりのうきすたくしまもしくさ引く網君は

田蓑浜　摂津

夏ふふ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]ふ衣さ[illegible]ていめをれ[illegible]紅ふ

[illegible]乳山　[illegible]

[illegible]の原の[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]の浦

海路原　[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]市明[illegible]日の海路[illegible]原

安達原　陸奥

[illegible]ハけさあ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

同帰山　[illegible]

[illegible]ふ中[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

[illegible]山　近江

[illegible]年[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

伏入里　山城

すりりや伏入の里は茅根草もいく春の人めとらし

高浦　摂津

かれにもたるとそらるれあり戸ゐる高浦の雲焼大

石淵社　山城

沖南波の石淵の社の神垣の名はそなく

筑波山　常陸

つくと山ちりは雨ふれの数ちも知るぬ人の心ゆら

神浦　出羽

神のくに波の花ちもちるさらいしの数の立上高て

益田池　大和

[illegible]

言師浜　相模

神津波ちしは浜の雲も花のくれ中の名てあられ

行波の春　長谷

秋恋いあそれは内立草の人ふれ[illegible]

石川須香波　冬付

かくしいくちの秋いちすのわちもあられ紅葉そふ

須磨　摂津

ちちのやちまなのけの[illegible]きんと

鉢同浦　作伊

沖しちや鉢ちれくくあ[illegible]

守山迫は

[illegible]

作州舟橋　上野

かけてたに桜一中ハ分[illegible]をひと行ねさの舟橋

安積沼　陸奥

人心あさうの沼ハ[illegible]をあうとうかうこきてや海ん

松嶋　陸奥

あまのうら桜とのことに行ばやをもはる[illegible]

備州橋　陸奥

東路のとうえのうちも[illegible]あとといたらの絶とうこる

三熊野浦　紀伊

みくまのの浦のうをうこ立寄れたるひと行や海ん　尾張

吹浦　尾張

よ[illegible]ふ[illegible]の浦ハ夕烟うのそふもいそ[illegible]ん

二見浦　伊勢

むらけ[illegible]のうれ夕月東ハけてとうの[illegible]

名取川　陸奥

ひらの海ハあうた名ハ[illegible]せんあうの絶ハ[illegible]

芳野川　大和

よ[illegible]川海ハ[illegible]ハ[illegible]の人ハんそうこうもん

佐原川　伊勢

[illegible]佐原河ハ[illegible]

ふきこし　飯河

[illegible]立烟をとゝめおりの日をのこん

還こし　[illegible]

[illegible]くさひとゝの秋の夕暮

海橋立　丹後

[illegible]秋風をふく天の[illegible]立

[illegible]川　大和

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]　山城

[illegible]ねこ[illegible]ん無[illegible]

辰市　大和

[illegible]市[illegible]れ[illegible]枝もたゝり

吹飯浦　和泉

[illegible]浦吹飯のうに[illegible]の[illegible]

布引滝　摂津

[illegible]なに[illegible]の布引たき

長柄橋　摂津

[illegible]ちに[illegible]と思ひも[illegible]

玉川里　摂津

[illegible]のうに[illegible]玉川の里

生浦　伊勢

[illegible]浦[illegible]

信夜中山を過

うの花の咲ける中山路の春も深雪

信濃路　中山

あり人のまうけ夜行もあるべきを時のさまなく日の白雪

角田川　武蔵

ながめ入れば石ぶみ山の角田川ふの秋の月哉

浅草　扇子

京と云も河内なれば南人は浅草も浅草哉

若浦　紀伊

わらはやねうちかけ浦の浦ふきとる海風

金沢　実迫江

ゆるゆるとゆかもゆかもゆく波は実の浦ゆく船哉

三津浜　松津

三津の浜見ぬ波の見つれとゆるゆる松の

美

春

[illegible]　中院通躬

[illegible]

若松原　烏丸光栄

[illegible]

春日野に　三条西公福

いたれはいとゝ[illegible]

武蔵野　冷泉為久

[illegible]

塩竈浦　光栄

[illegible]

浜名橋　公福

四海なみしづかなるとてさすらえて名残惜しきかな

玉津島　通行

あらし吹ものすさまじき玉津島ながらへんとてなれて行らん

三輪　通行イ為久

吹ものとてこりやこの三輪の山杉色移の門なりとも

逢坂関　光栄

思ひきやあはぬ世の中の逢坂の関越のたえ

芳野　通行

ひとすがらいつこう雲ふかりひとすがらいつこう雲ふかりひとすがらいつこう雲ふかり

はるかに見やらんとすれば
　　信濃の国浅間
山はいかなるとはるばるとうちぬくるひとすさまじく飛て
　　大井川
さしつくるふるの数や大井川ちもいかるくはくかるる
　　吉野山
桜やはれはれさきはふるるんちねのみたをるるき
　　布引滝
岩のもとつるむるかるふれはまるそはるるるる　布引の滝
　　桜
　　泊瀬
　　公福
初せみりきの吹れうの谷風や桜ふるる林の中とたるるん
　　野路玉川
はるるちるるれるの桜桜はるるかけるるるるる玉川清
　　為久
　　文殊野
ちれれるるる吹桜をるるれれや本のしるき高の恵
　　通彩
　　浄見潟
きよるるかるるるるるはるるるるるはれ見潟
　　光景
　　須磨
月にるる須磨れるれるるるるるるるるるるるるるるる
　　通彩
　　四石
はるる深るるる深るるる時るるるるるるるるるるる
　　公福
月にはは沖の海とかるるる

更級　　為久

かすみもはてぬ夕ぐれの空　遠き里はの秋の月

志賀入江　　遠影

江の波もあらしにまさる冬の浦風　　光業

伏入

衣とは伏入の里の秋さむし　一夜の宿やうらもきるらん

生田杜　　公福

なれもはらふ袖の木がらしてふく田の面の庵やたもと

吹上浜　　為久

吹上の浜の塩干の夕風に　海ゆく舟もたちそうられ

竜田　　光業

ひとをあらはらの田のはきふとは川ともとまれる

冬　　為久

住吉

白ハ路の夕ぐれ　夕日の海ふ住れ白の波

小塩山　　通俊

をしの山不ふにかけて深まさる　ふれあふ音の

志賀　　光業

白かぜ浦やみきハ氷に一むの松ふとくまさる波

吟海　　為久

ひとり数もかからぬ松の音ばかり　ふの音ばかり

宇治　　公福

[illegible]

交野　　光栄

[illegible]

白川実　　通行

[illegible]

松鴻　　久綱

[illegible]

雜

不二山　　通行

[illegible]

松浦　　光栄

[illegible]

松浦　　光栄　イ久綱

[illegible]

隅田川

[illegible]

佐野中山　　為久

[illegible]

海士潟立　　通躬

[illegible]

多賀　　光栄

[illegible]

今坂実　　久綱

[illegible]

若浦　為人

[illegible]

初巻

きりぎす　右兵衛督
高倉永秀卿

新月　中将朝臣　今木宣秋

[illegible]

盛花　惟久朝臣　竹内式部卿

明月　光村朝臣　二条[illegible]大納

[illegible]

落花　相永朝臣　入江修理亮

なとはるふかしむもの身にそひてなかめられすな

傾月　　為業　冷泉侍従

こゝろなくこゝろはつかれ新しいかに本よりの月れ面影の新

判　あひよかりけり月にこゝろはつくとなかめよの

閑居　　卿君　成紀卿宗家　冷泉右中将言

こゝろのゝ庵の窓をくきて初くこゝろ知ら人は晩の秋

出久　　為村　冷泉前中納言

四方の新たすくさにのりこゝろの宗の夕れ

判　はるふれ庵の松をくこゝろはてい宗の夕れこゝろはれ

久々調　　頭朝臣　池小路左中将隆政

吹すのいやくこゝろもりてひくに春に初こゝろくの花たちはれ

笛音　　為泰朝臣　冷泉宰相

こゝ笛のこゝろの吹ちくの吹くのこゝろもさそこゝろもて

判　こゝ笛の笛のこゝろの吹ちくの吹のこゝろくいそ見

樵夫　　前宰相君　友名ゆこゝ

こゝこも別の業とおもひそや書本おひつもこゝろ人

海人　　宰相君　山科頼言

藻塩やくこゝろはいれいつまてこゝろかこゝろ行こゝ身とこゝ見

判　四方の業こゝかれ見ひやこゝ見の月同しきこゝろ行まく人

和月のこゝめつくこゝ日本作はまくんくとこゝかこゝひ高花

の歌よまんくこゝ初京新月こゝ月とこゝ歌とおもひ作れた

つひのやまとなれなれとをはく
きよしとをくれなれまれいかなる中をゆくとても
しらてひとりとなりしかくはかりともおこる
しれ業とかな

めもり

一宝

宣川ゝ
ゝ
ゝ

梅を見　一　南花

雲間の屋とのゆて白雪の梅さく山にけぶらふれとも

南花

頭ふりはふるさとの市場のむ梅の

〃

岩根　〃

雪とてそふるんの沢の梅はさかせ風もこそ

芝山梅　留主ゝり

そこらなる梅の花の白雪の中にちらふ雪とみまがふ

日清家ッ高生

同　琴　〃

みまがふ雪とこそ見の奥の紙屋へとうめ書屋の琴

中秋十五夜俳諧

月　〃

名ゝあふこゝろの月をたのみて伝屋て

老懐四　ちなみ　一室

[illegible]

紅葉之の自然[illegible]

月とゝもに踊る　[illegible]

よろこぶのうなかの新[illegible]月をかなしの　[illegible]

京都　焼[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一夏月　　一六宝

高雲は白妙にかすみ月はあやめ川に影をみしまの月

[illegible]　　〃

[illegible]

柏原　　〃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕立

夕立の雨さへふるとひらかれぬ
夏屋
夏の夜に宿をとりあへぬ旅人
西鶴

小さなる川なつくしてもちよりもあるよの落ちる
夏の日はとりあつまるよ
ばんこうにはるかに見えぬ

川辺

見てをるけさの氣こゝの高さとうて夏屋
心法とものあはれそ
心樣ちがたこのかとふたもあるとうなりて
毛詩蓋と幸のんな
必ちとなくとなる人こゝにて清かるとのをゆ人
秋田月
秋田月、心つくるあるうの月なるうはひるすはしつて
ゆとなの時をとそ
はるかめて中三四月の苗かふとそ氣がのきとなれ
たのもし

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

大[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

以下全て
白紙

3.

淀川にて　一象

芝山様　富士が就

芦庵　士竟

コクヨ　ケ-30　20×10

禁裏御会始　六首　典仁親王　鐵仁親王　資枝　為泰　持

御当座始　六首　公雄・資枝・典仁・為泰・

一室　三首

芦庵　十二首

朝眺望　閑院宮孫

松に有る声　日野資枝卿

豊州宇佐八幡宮御奉納和歌　延享元年　桜町院御製五十首

○中院御百首（土御門院御百首）

○順徳院御百首

後小松院宸筆。

征夷大将軍

歌道類篇

○仙洞歌合難陳　寛永十六年十月十五日（一六三九）（伝手は多く、猪子とある）

和歌教訓　有栖川一品中務卿　于時明和三年（一七六五）

右一品中務卿職仁親王御教訓の書也

○教訓十五ヶ条（和歌教訓十五箇条）　烏丸光栄　歌学大系6

享保十四年正月廿日院御所御会始和歌

山影写水　御製

同廿四日公宴和歌御会始

貴賤送春　御製

武者小路三位実兵卿　二十首

芦庵　五十三首

コクヨ　ケ-30　20×10

順徳院百首（名所百首）

春　十二首　道路・光栄・公福・為久

夏　八首

秋　十二首

冬　八首

雑　八首

（詠今）

四月のはじめつかた、　まゐ人をとうかたらもて春宮の新まゐとて初花新月を

はじめ題を中侍はべ、つかひのぞうに成ぬ。其日の新月もをりまゐりを付侍べき

よしてかの時れし給いまみ申も申くゝとかすゝて いと思たちけはすみい

あくまもおこかまを書たる

為むら

コクヨ ケ−30 20×10